

おおたいせき  
15. 太田遺跡

所在地：大野市太田  
調査原因：中部縦貫自動車道建設事業  
調査期間：平成 22 年 6 月 1 日～12 月 28 日  
調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター  
調査面積：2,000 m<sup>2</sup>  
時代：弥生時代・飛鳥時代



位置図 (S = 1/50,000)

**調査の概要** 太田遺跡は大野盆地北西部を流れる赤根川左岸の氾濫原に立地しています。今回の調査は前年度調査区の東側にあたり、前年度に確認されている集落跡の続きが見つかることが予想されました。なお、県道を挟んで北西方向には平成 19 年度から調査されている小矢戸旗鉾遺跡が隣接しており、遺跡としては一連のものと考えられます。

**遺構** 前年度と同じく調査区の南半にかたよって集落跡が見つかりました。検出されたのは掘立柱建物跡 4 棟のほか、土坑、溝、小穴等です。

調査区北半はほとんどが旧河道で占められています。その下層からは弥生時代中期～後期の土器が出土しました。弥生時代後期の土器がまとまって出土した場所もあります。旧河道の底面では掘立柱建物跡 2 棟を検出しました。時期は弥生時代以降のものと考えられます。また、飛鳥・奈良時代の遺構に混在するかたちで弥生時代の土坑が 1 基だけ見つかり、土器がつぶれた状態で出土しました。

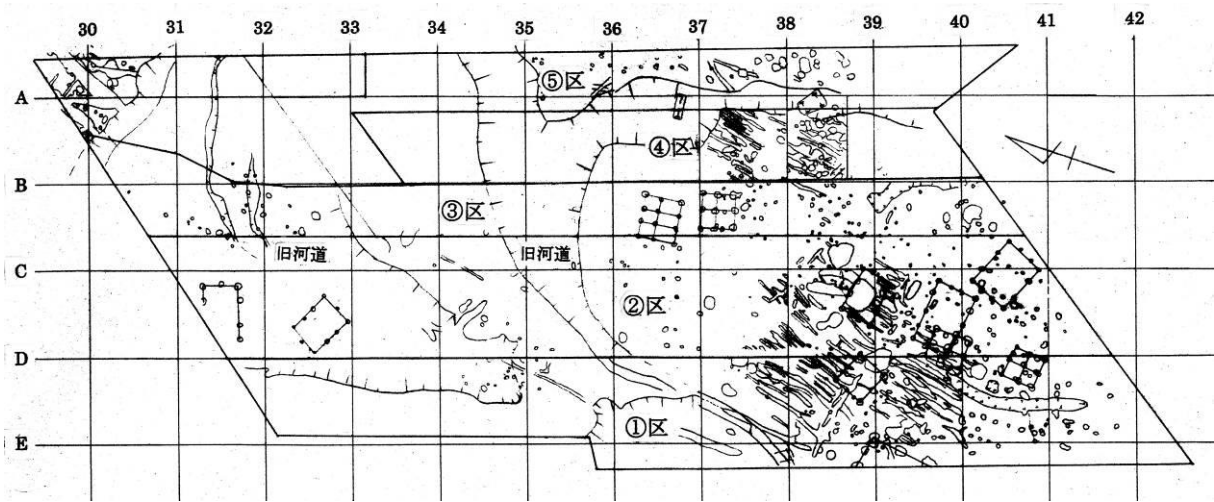
旧河道北岸の調査区北東角部分では微高地の上に古代・中世の溝や土坑が見つかりました。小矢戸旗鉾遺跡南端で見つかった集落跡の続きとなります。

**遺物** 掘立柱建物跡の周辺を中心として飛鳥時代から奈良時代の土師器や須恵器が出土しています。この中には内面に漆が付着していて、漆器等に漆を塗る際に容器として使用したと考えられる土器など、日常用の食器以外のものも含まれていました。土器以外では旧河道の上層から木製の火錐臼（摩擦で火をおこした痕がある木の板）が出土しました。

旧河道の下層から多く出土した弥生土器の中には岐阜県や滋賀県によく見られる文様をもつものがあり、当時の人々の交流関係がうかがえます。

**まとめ** 2 カ年にわたる調査で掘立柱建物跡などの飛鳥・奈良時代の集落跡が見つかりました。その中心となる時期は 7 世紀後半頃と考えられ、小矢戸旗鉾遺跡で見つかった集落よりも古い時期のものと考えられます。今後さらに詳細な出土遺物の検討を行いますが、古代の集落の中心となる場所が両遺跡の間で移動しているという見通しを得ることができました。

(杉山拓己)



調査区全体図 (①区は前年度調査区)



掘立柱建物跡群



飛鳥時代の溝 遺物出土状況



弥生時代の土坑 遺物出土状況



作業風景